

地 球 温 暖 化 対 策 計 画 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社 松岡旅館
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中村区名駅二丁目 4 5 番 7 号
工場等の名称	松岡ビルディング
工場等の所在地	名古屋市中村区名駅二丁目 4 5 番 7 号
業種	サービス業（他に分類されないもの）
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸ししている建築物）
事業の概要	テナントビル
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 松岡ビルディング 1階窓口
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	0 5 2 - 5 4 1 - 2 3 8 1		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

1 継続的な環境改善

P D C Aサイクルに基づく環境施策の継続的な改善をはかります。

2 省資源・省エネルギー活動の推進

電気、ガス等のエネルギー使用量を令和6 1.5年度までに令和3年度比1.5%削減を目指します。

3 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進

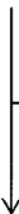
廃棄物の発生量を抑制するよう努力します。

4 従業員への環境教育と社外への環境コミュニケーションの推進

従業員に対して環境教育を行い、社外に対しては環境情報の公開をすすめます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

ビルオーナー



松輪ビルテック株式会社

社員・テナント

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1, 578	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1, 578	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総 排 出 量	1, 578	t-CO ₂	1, 555	t-CO ₂	1. 5	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排 出 量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを1年間に0. 5 %ずつ、3年間で1. 5 %削減を目指す。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	・熱中症に配慮しながら身体に無理のない範囲で冷房温度 28℃、暖房温度 20℃を心がける。	
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	・使用していない部屋、昼休み等には不必要な照明の消灯を心がける。	
省エネルギー・省資源の行動の実践OA機器	・パソコン購入時は省電力のものを可能であれば選ぶようにする。 ・コピー機、パソコンの退社時のスイッチオフを心がける。 ・エスカレーターの運行時間を決め、利用者が少ない時間は止める。	
廃棄物の排出抑制	・裏紙利用を心がける。 ・分別回収をより実践しリサイクルを心がける。	

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組